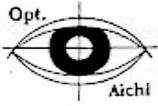


OPT・NEWS



あいち

発行 愛知県眼鏡小売商協同組合

<http://www.aaaochi.pupu.jp/>

発行人 / 成田光宏

編集人 / 広報委員会 鈴木雅博



最新的话题を一堂に

第33回 東海眼鏡フォーラム

東海眼鏡協議会(平岩幸一代表幹事)主催の東海眼鏡フォーラムが2025年10月7日(火)午後2時より東京第一ホテル(名古屋市中区錦三丁目)3階「ドルチェ」で開催された。フォーラムは3部構成で講演会が行われ、県内外から小売、メーカー卸などの業界関係者40名が参加し熱心に聴講した。

フォーラム終了後は同ホテル11階「アンピオ」で懇親会が開催された。出席した参加者らは講演会講師から直接話を聞いたり、参加者同士談笑する光景も見られ、情報交換や交流の場となった。



挨拶する平岩代表幹事(左)と講演会の様子(右)

愛知県めがね組合事業の一環として、組合員のフォーラム参加費用の一部が負担された。参加した組合員の男性は「フォーラムでは普段聞けない内容や主要メーカー各社の最新ニュースを一度に聞くことが出来る貴重な機会なので毎回楽しみにしている」と話し来年度以降の開催も楽しみにしていた。

講演会第1部 「視能訓練士の業務内容と眼鏡作製技能士との連携」

名古屋医専視能訓練学科 教員 小川憲一氏(視能訓練士・1級眼鏡作製技能士)

講演会では初めに、視能訓練士(以下CO)誕生の歴史やCOが担う主な検査や業務について説明がされた。また、小川氏がこれまで勤務したクリニックや総合病院での1日のスケジュールを例に話し、COの認識を深めた。

医師、看護師、視能訓練士など多様な医療スタッフがそれぞれの専門性を活かし、情報と目的を共有して連携し、患者のケアや治療を提供する医療形態「チーム医療」について紹介がされた。チーム医療は別名「多職種連携」であり、眼鏡であれば医師、視能訓練士、眼鏡作製技能士、眼鏡関連

メーカーが連携することで、患者のQOVL(Quality of Visual life: 視覚生活)の向上に繋がるものと思いを述べた。さらには本年発行された眼科医会の眼鏡に関するガイドラインにおいて「眼鏡処方箋には使用したテストレンズの名称記載が望ましい」とあることが紹介された。今後眼鏡処方箋には装用テストで使用されたテストレンズ名が記載されることもあることから「眼鏡レンズの種類が多様化する中で、COもメガネの勉強を行っていく。眼鏡店の皆様は近隣の眼科へ出向いて頂き、皆さんの職場の内容をお伝えいただいたり、処

方箋の記載内に要望等あれば眼科医やCOに伝えていただき連携を図ることでお互いの顔を覚え知りうることで安心して眼鏡店を紹介して頂けると思う。そうすることで患者さん、お客様の満足度が上がるので、今後とも我々の立場と眼鏡店の皆さんと共に連携を図っていきましょう」と話した。

眼科と眼鏡作製技能士の連携の大切さを講演する小川氏



東海眼鏡フォーラム

■レンズメーカー4社の最新ニュース

○HOYA株式会社「2025年新製品の特長とユーザーメリット」
 ○セイコーオプティカルプロダクツ株式会社「40代から始める“快適視生活”ライフステージに合わせた累進レンズ提案」
 ○株式会社ニコン・エ

シロール「秋冬の調光レンズのお勧め方法」
 ○東海光学株式会社「最新コーティングについて」

■レンズメーカー4社の最新ニュース

○株式会社トプコン・エシロール「新製品のご紹介」
 ○株式会社ニデック「近視管理について」

熱田神宮「眼鏡之碑」 眼鏡感謝祭

眼鏡感謝祭が10月7日(火)午前11時より開かれ、参列した愛知県めぐね組合役員8名が眼鏡への感謝の気持ちを捧げた。「眼鏡之碑」は愛知県眼鏡小売商協同組合の前身となる名古屋眼鏡商業協同組合が創立60周年を機に、昭和57年10月に熱田神宮内二十五丁橋袂に奉納・建立された。



眼鏡之碑へ拝礼する成田理事長



視能訓練士略称の適正使用

日本視能訓練士協会では、視能訓練士の正式な略称は「CO (Certified Orthoptist)」であることを提唱している。日本国内では長らくORTが通称として使用されていたが、これはorthoptistの頭文字3つを抜き出して便宜的に略称として用いられたもので、海外では通用せず一般的ではないことから、適正な略称であるCOを用いる方針を定めており、近年の日本視能訓練士協会事業においてはORTという略称は使用していない。



頑張る組合加盟店の顔が見える

三河支部

メガネの岡田 岡崎市康生通西3丁目4



岡崎市は徳川家康公が生まれた城として有名な岡崎城をはじめ、家康公ゆかりの寺社や文化財が数多く点在する人口38万人の大都市です。岡崎眼鏡専門店会「六人衆」と銘打ち、市内6店舗の眼鏡店店主が協働し販促する独自の事業を展開し、岡崎の人たちのメガネを支えています。

取材のため訪店すると、「ありがとうございました。どうぞお気を付けてお帰り下さい。」と店舗の前でお客様をお見送りする店主の姿が見えた。それだけで店主の人柄とお店が大切に

していることが分かる気がした。

メガネの岡田は昭和10年に創業し今年で90年の節目を迎えた老舗眼鏡店。岡崎の商業地区の中心に店があり、岡崎の人々の大切なメガネを作製し支えている。

岡崎眼鏡専門店会六人衆の一人、1級眼鏡作製技能士の三代目店主岡田幹夫氏は、東京眼鏡専門学校を卒業し、20年間都内の眼鏡店や眼科で勤務した経歴の持ち主。「真心が伝わる信頼のメガネ」

を念頭に、地域から頼られる眼鏡店を営んでいる。「人と人との繋がりやご縁を大切にしています。お客様からの信頼は何にも代えられない大切な財産です。」と岡田氏は語る。取材時もお客様が絶え間なく来店され、お客様目線で商品をご提案する店主の姿と、店主を頼るお客様の姿がとても印象的だった。

店主の物腰柔らかい丁寧な接客と確かな技術が、メガネの岡田を訪れるお客様を魅了している。

話をお伺いした店主の岡田幹夫氏(「メガネの岡田」)

